

マタイの福音書 6 章 9～13 節（：10a）「御国が来ますように」

今日は第二の祈り、「御国が来ますように」について学びます。

1. 御国とは

「御国」は直訳すると「あなたの王国」となります。御国とは神様の王国であり、神様がその国の王です。表現を変えれば、御国とは、神様のご支配が行き届いている領域ということです。

ですから、「御国が来ますように」という祈りは、神様のご支配が拡がり、確かなものとされますようにと祈っているのです。本来は、神様が造られたこの世界の全体は神様の支配に従っているはずですが、現実の世界は人々の罪によって、神様に逆らい、神様に従おうとしていません。その世界に神様のご支配が拡がることを祈っているのです。

御国、天の御国、神の国について、主イエス様は多くのことをお語りになりました。公生涯の初めからイエス様は「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」（マルコ 1：15）と宣べ伝えました。救い主イエス様が来られたことで、神様の御国がこの世に到来したのです。

しかし、主イエス様が語っていた神の国とは、地上の王国のことではありません。「悔い改めて福音を信じ」することで、神の国に入ることができるのです。神様との関係において実現しているのです。自分の罪を認め、心砕かれた人たちがこそ神の国に入ると主イエス様は教えました。

同時に、御国の完全な到来は未来のことであるとも教えました。新約聖書では、やがてイエス・キリストが再臨され、神の国が完成されることを繰り返し教えています。そのことはイエス様ご自身が教えていたことです。この世の終わりの時、キリストが再臨され、人々は御前で二つに分けられ、一方の人たちは御国に入ることができ、もう一方の人たちは永遠の火に入れられてしまいます。すべての悪の力は滅ぼされ、神様の支配が永遠に確立されるのです。その永遠の御国は「新しい天と新しい地」と言われ、そこでは「もはや死はなく、悲しみ、叫び声も、苦しみもなし」（黙示 21：4）く、神様の栄光の中で、神様とともに永遠に住うことができると言われています。

このように、御国は、イエス・キリストが人としてこの世に来られたことで人々にもたらされ、そして、キリストが再臨される時に完全に到来するのです。そして、その御国、つまり神様のご支配の中に入ることができる人とそうでない人がいると言われています。

2. 信じる者の心と生活に

そのことを踏まえて、「御国が来ますように」との祈りについて考えたいと思います。

神様のご支配は、悔い改めて福音を信じ、新しく生まれ、心砕かれた人の心の中に確かにされます。このことについて主イエス様がお語りになっていたことを確認しましょう。ルカ 17 章 20～21 節。

主イエス様は「神の国はあなたがたのただ中にあるのです」と言われました。イエス・キリストを信じる一人一人の心の中に御国があるということです。目には見えませんが、キリスト者の心を神様のご支配しているのです。そして、心が神様に支配されているなら、そのことがその人の生き方に現れてくるはずですが、ですから、「御国が来ますように」との祈りは、イエス・キリストを信じて救われている私たちそれぞれの心が神様に支配され、私たちが神様に従って生活していくことを願い求めているのです。

神様の恵みによって、私たちには新しい心が与えられています。けれども、意識していないと、古い罪の性質が表れ、自分が中心になっていることがあります。心の王座に主を迎えたはずなのですが、いつの間にか自分が王座に座り、主を心の隅に追いやってしまっていることがあります。ですから、「御国が来ますように」と祈り、自分の心に神様のご支配が確かなものになるように祈るのです。主が自分の心の王座に着いて、自分はその足元にひれ伏すしもべとなるようにと祈るのです。

言い換えれば、私たちの心が、罪の思い、肉の欲、自己中心から解放されて、みことばによって教えられ、神

様のみこころに従っていくことです。キリストの心を自分の心とし、キリストの姿に倣って生きていくことです。自分がそのような心とされているか、吟味する必要があるでしょう。もし、足りなさを感じるなら、「御国が来ますように」と祈り、私の心のうちに神様のご支配が確かなものとなりますようにと祈る必要があります。そして、パウロが言うように、「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」（ガラテヤ2：20）と告白できるほどに、主に従う心と生活となることを願って祈るのです。

3. 未信の方が救われるように

神様の御国が他の人々の心と生活の中にも来ますようにと祈ることもあります。「御国が来ますように」と祈るとき、私たちは福音が宣教され、福音を受け入れて救われる人々が起こされるようにと祈っているのです。

救いを経験した人は、まだ救われていない人たちが救われるようにと願うようになります。救われている喜びを経験している人は、その喜びを知らせたい、分かち合いたいと思います。これは自然なことです。救われた人は、早速自分の家族のために祈り始めるでしょう。周りの方々にみことばを伝え、神様の恵みを証しするでしょう。ある人々は、福音の宣教のために生涯を献げるように召されるでしょう。また、他の人々も、祈りとささげ物ともって、宣教の働きを共にするでしょう。それらのことを含めて、「御国が来ますように」と祈っているのです。まだ救われていない方々が神様の御国に入ることができるように、罪とサタンの支配から神様のご支配の中へと立ち返り、神様に従って生きていくようにと祈っているのです。

4. 永遠の御国への希望

以上のように、この世において人々の心に神様の御国が来ますようにと祈ると共に、「御国が来ますように」との祈りは、終末における御国の完成を待ち望む祈りでもあります。

天の御国では、私たちは罪がなくなり、完全に聖い者とされます。もう罪と戦わなくてよく、思い悩むことがなくなります。また、病気もなく、死もありません。一切の悲しみ、苦しみから解放されます。私たちは栄光のからだをいただいて、御国で永遠に住まうことができます。そして、神様を、顔と顔を合わせて礼拝することができるのです。この御国の完成を待ち望んで「御国が来ますように」と祈ります。永遠の御国への希望が与えられているので、私たちキリスト者は、今のこの地上での歩みに力を与えられます。

「御国が来ますように」と祈るとき、まず各々が、自分自身の心が神様のご支配に服従し、神様に従って生活していることを祈り求めましょう。「キリストが私のうちに生きておられるのです」と告白できるほどに、主に従う心と生活となるように祈りましょう。

また、人々の救いのために祈りましょう。家族に、周囲の方々に、あらゆる国の人々に、御国の福音が届けられ、悔い改めて神様のご支配に立ち返り、御国の民として生きる者とされますように祈りましょう。

そして、永遠の御国の完成を待ち望みながら、今の歩みに力をいただけるように祈りましょう。「主から報いとして御国を受け継ぐことを知って」いるのですから、その信仰と希望を告白していけるように祈りましょう。